

4 搾乳手順のポイント

(1) 搾乳手袋の装着

搾乳中、手のしわ等についた細菌は、搾乳作業によって牛にうつることがわかっています。手袋をつけることで、菌がついても洗い流しやすくなります。搾乳中は常に手袋は清潔にします。



写真3 搾乳手袋

(2) プレディッピング

搾乳前、細菌を殺菌し、乳頭口からの進入を防ぐためにプレディッピングします。

細菌を十分に殺菌するため、乳頭の3分の2以上を丁寧に溶液で漬け、30秒～1分程度拭き取るまで時間をおきます。スプレーよりディッパーの方が確実に乳頭を被覆できます。



写真4 プレディッピング

(3) 前搾り

ミルカーを装着する前に手搾りし、乳汁をストリップカップに受け、乳房炎の確認を行います。

また、乳房に溜まった生菌数の高い生乳を搾り捨てる効果もあります。

さらに、乳頭刺激によりオキシトシンの分泌も促します。

始めは生菌数が多いので、4回以上搾り捨てます。



写真5 前搾り



写真6 前しぼり1回目の菌



写真7 前しぼり4回目の菌

(4) 清拭

乳頭についた汚れや、プレディッピング溶液を拭き取るため、タオルまたはペーパータオルで乳頭の汚れをきれいにします。特に乳頭先端は汚れがこびり付きやすいので、念入りに拭き取ります。

○ 良い例



1本ずつ包み込むように拭く



乳頭先端も丁寧に拭く



写真8 清拭

図2 清拭のポイント



(5) ミルカー装着

ミルカーを装着する時に空気が入ると、真空圧が低下します。（搾る力が低下して他のミルカーに悪影響を及ぼします。）装着する時は空気を入れないように、ショートミルクチューブを折り曲げて装着する寸前に伸ばします。

乳頭刺激（清拭）後の早すぎる装着は、乳頭口を痛める原因になります。十分に乳房が張ってから、乳頭に対して真っ直ぐに装着し搾乳します。

遅すぎる装着は、オキシトシンの効果を十分に利用できず、乳量が低下します。



図3 ミルカー装着のポイント



写真9 ミルカー装着

(6) 位置調整

ロングミルクチューブがたわんでいると、ライナーリップを誘発し多量の空気混入によりユニットが落ちてしまいます。

ミルカーが乳頭に対して真っ直ぐなるように位置を調整します。



写真10 位置調整
(パーラー)



写真11 位置調整
(つなぎ牛舎)

(7) ミルカー離脱

ミルククロー内部に流れる生乳が少なくなったら、真空を遮断し離脱します。離脱の際は真空が遮断されてから一呼吸おいて4本同時に外します。

真空遮断前に外すと乳頭口を痛めます。

過搾乳（搾り過ぎ）は乳頭口を痛める原因です。



写真12 ミルカー離脱

(8) ポストディッピング

乳頭を殺菌して乳頭口からの菌の侵入を防ぐため、ポストディッピングをおこないます。スプレーだと、ディッピング溶液が十分にかからない場合があるので、ディッパーで確実に行います。

搾乳終了直後に乳頭の3分の2以上を丁寧に漬けます。

ディッピング剤は、用法用量を守り使います。

プレディッピング溶液とポストディッピング溶液は、ヨード濃度が違います。各用法用量を守って使用しましょう。



図4 ディッピング剤が乳頭に付着したイメージ



写真13 ポストディッピング